

**誕生から40年の横浜市金沢区のニュータウンに
地元企業×行政×大学×地域住民(産・官・学・民)が集結。
住宅地におけるエリアマネジメント「あしたタウンプロジェクト」を、7月14日始動。**



プロジェクトの始まりと、ロゴマークの投票を
住民に呼びかけるポスター

1978年に生まれた「金沢シーサイドタウン」が抱える課題(高齢化・人口減)の解決に取り組む。
いつまでも、“住みたい” “住み続けたい” “訪れたい” まちであり続けることを目指して。
～7月14日(土) コミュニティスペース 新「並木ラボ」 オープニングお披露目会を実施～

来たる 7 月 14 日(土)、地元企業や団体・行政・大学・地域住民らで構成される「横浜金沢シーサイド エリアマネジメント協議会」は、金沢シーサイドタウンを対象エリアとしたエリアマネジメント活動「あしたタウンプロジェクト」を始動します。

〈指針〉

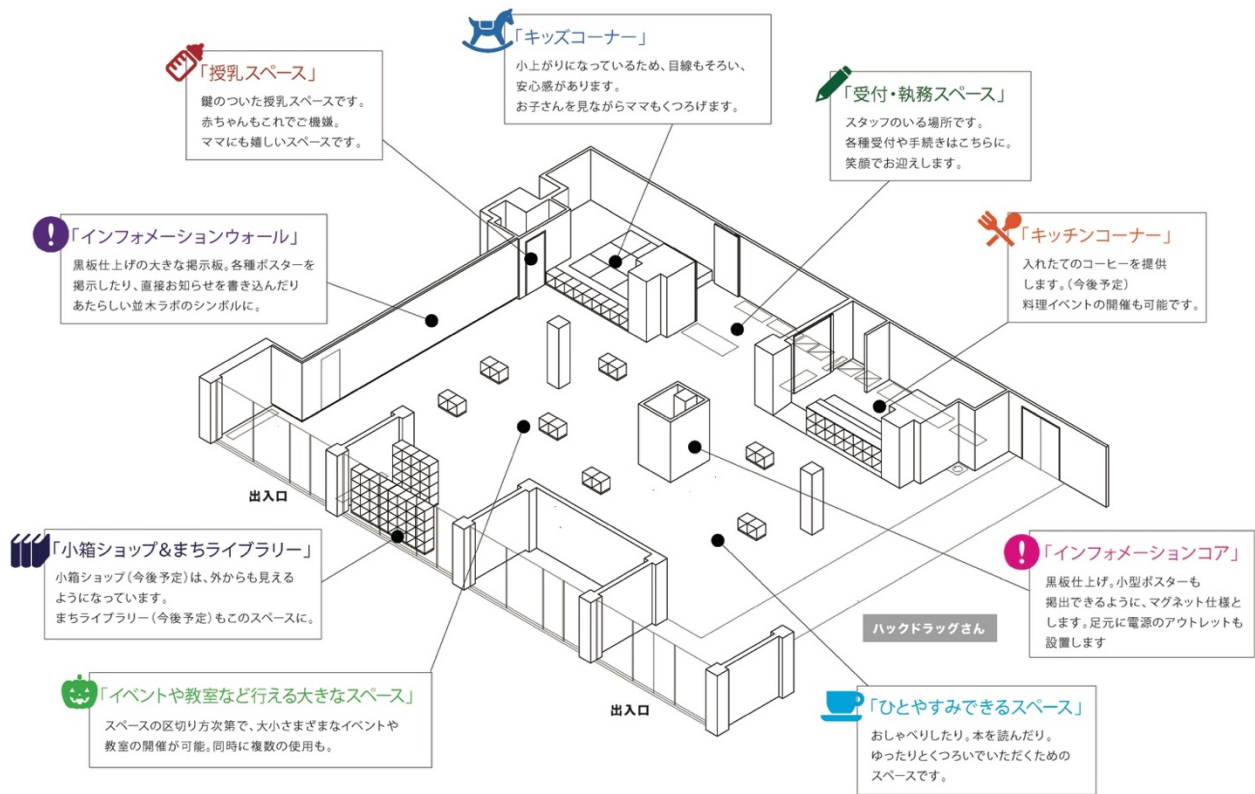
- 【暮らし価値向上】 多世代にとって住みやすいまちを目指した、地域資産活用・コミュニティ形成促進
- 【情報発信】 まちの若返りを目指した、子育て世代をターゲットとする情報発信
- 【連携・自走】 持続性のある活動を目指した、地域での連携、自走実現のための事業計画

〈ファーストアクション〉

- ① 活動を見える化し、連携を促すためのプロジェクト名称「あしたタウンプロジェクト」の命名
…住民インタビューを通じ策定、協議会において議論・決定したこの名称には、
「このまちの豊かな毎日をあしたにつないでいこう」という思いが込められています。
- ② より多くの認知・住民参加を促す、ロゴマークの住民投票 ※実施中
…6月18日(月)～7月29日(日)、結果発表は8月予定
URL: <http://ashitatown.jp/entryform.html>
- ③ 商店街の空き区画を活用した、コミュニティスペース 新「並木ラボ」の整備 ※7/14 オープン
…貸しスペース/キッチンスペース/キッズスペース/フリースペースからなる、約 260 m²の空間。
住民参加型のワークショップを行い、要望を吸い上げ、設計に活かしています。
- ④ 地域情報などを集めたまちのホームページの立上げ ※7/14 公開
…まちカレンダー/住民掲示板/まちマップなどで構成される地域情報のポータルサイトです。
URL: <http://ashitatown.jp>

(次ページへつづく)

■エリアマネジメント活動の拠点となる、約 260 m²のコミュニティスペース 新「並木ラボ」



7/14(土) 新「並木ラボ」オープニングお披露目会 ご案内

- 開催日時 2018年7月14日(土) 10:00~17:00
- 場所 新「並木ラボ」
住所:横浜市金沢区並木1丁目17-7号棟1階(「ハックドラッグ」隣)
交通:シーサイドライン「並木中央」駅から徒歩約6分、「並木北」駅から徒歩約6分、
京浜急行「京急富岡」駅から徒歩約10分
※添付資料「案内図」もご参照ください。
※駐車場(有料)台数は限られていますので、公共交通機関をご利用ください。
- プログラム 公開トークセッション(取組趣旨、利用説明等) 他/10:00~12:00
登壇者:横浜市立大学 三輪律江准教授、中西正彦准教授、
横浜金沢シーサイド エリアマネジメント協議会 構成メンバー 他(予定)
- 住民や商店街と連携した、各種ワークショップ/13:00~17:00
※施設のご案内等は、随時いたします。

※手作りのオープニングイベントです。スケジュールが前後する可能性もありますがご理解ください。

〈横浜金沢シーサイド エリアマネジメント協議会 構成メンバー〉

- 【産】石井造園(株)、(株)安藤建設、(株)三春情報センター、(株)横浜シーサイドライン、(株)横浜八景島、
京浜急行電鉄(株)、大和リース(株)、独立行政法人都市再生機構、三井不動産(株)
- 【官】横浜市金沢区役所、横浜市政策局、横浜市住宅供給公社
- 【学】学校法人関東学院大学、公立大学法人横浜市立大学
- 【民】金沢シーサイドタウン連合自治会

※取材をご希望の方は、以下の問い合わせ先にご連絡下さい。

横浜金沢シーサイド エリアマネジメント協議会 事務局

(横浜市住宅供給公社 街づくり事業課事業推進担当課長 太田祐輔 TEL 045-451-7740)

(次ページへつづく)

あしたタウンプロジェクト

金沢シーサイドタウン

金沢シーサイドタウンのかけがえのないもの。
それは、水と緑の環境、都市デザイン、暮らしやすさといった「まちそのもの」と、
そこに流れる「豊かな日常」です。
これらを、色褪せることのないようあしたへ受け継ぐことで、
金沢シーサイドタウンが、多くの人にとって
住んでみたい・住み続けたいまちとして、キラキラと輝き続けることを目指します。



横浜金沢シーサイドエリアマネジメント協議会



(資料)

〈「金沢シーサイドタウン」について〉

横浜市金沢区所在、1978年入居開始。9事業者・37団地・総戸数8,905戸からなるニュータウン。

1965年に提唱された「横浜の都市づくり将来計画の構想」(1965年)による横浜市六大事業の一つとして、産業用地の創出等を目的として作られた埋立地に、既存市街地との緩衝・居住地確保のために整備されたまちです。水と緑など豊かな自然環境に恵まれた立地環境、楨文彦氏を始めとする日本を代表する建築家たちによってデザインされた美しい街並みは、他の同時代のニュータウンとは一線を画しています。

その中で、新「並木ラボ」が位置するセンターシーサイド地区は、商店街(センターシーサイド名店会)や商業施設があり、金沢区並木1丁目のセンター地区として開発されました。また、隣接する「ふなだまり」とその周辺地区は、埋立地の中に残された貴重な水面のある公園として、住民の憩いの場となっています。



〈「並木ラボ」や「横浜金沢シーサイドエリアマネジメント協議会」の経緯〉

平成25年度に文部科学省「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)※1」採択をきっかけに、横浜市立大学により、金沢シーサイドタウンの商店街の空き店舗スペースを利用したUDCN並木ラボ※2(以下、並木ラボ)が運営されてきました。

本活動を通じて、地域内外の情報収集や発信体制と、地域住民間の交流促進に拠点となる場の必要性等を確認しました。そこで、平成29年2月に横浜市立大学と連携協定を締結している横浜市住宅供給公社、および地元企業や行政、地域住民の方々とともに「エリアマネジメント検討会」を立ち上げ、エリアマネジメント体制をどう構築するかを検討を進めてきました。

今年5月、この活動をより具体的なアクションへ進化させるために「エリアマネジメント協議会」へと移行し、また以前より検討してきた情報発信・交流促進によるまちの活性化プロジェクトを「あしたのタウンプロジェクト」と名付け、7月14日(土)より始動することとなりました。

今後は、活動拠点としてオープンする新「並木ラボ」「まちのホームページ」の管理・運営を核としながら、先に挙げた指針に則りエリアマネジメント活動を行っていきます。

※1 地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)(COC…Center Of Communityの略)

文部科学省が地域再生・活性化の核となる大学支援を目的に平成25年度から開始した事業。

【参考】<https://www.yokohama-cu.ac.jp/ytog/contribution/coc/index.html>

※2 UDCN並木ラボ(UDCN…Urban Design Center Namikiの略)

平成25年度文部科学省「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」選定取組として横浜市立大学が設置したサテライト拠点。超高齢社会が抱える課題の解決に向けた様々な活動を展開し、「コミュニティの活性化」や「健康に暮らせるまちづくり」に取り組んできました。

以上